

研究資料；レイ契約の締結～解約関連資料

——裁判記録から¹⁾

林 田 治 男

The Judicial Records Say What Mr. H. N. Lay Did for the Japanese Loan.

HAYASHIDA Haruo

1. はじめに

1869年12月（明治2年11月、当時は太陰暦が使用されていた）、日本政府は英国人H.N.レイとの一連の契約により、彼を代理人として鉄道を敷設し、それに要する資金借入れを彼に委託した。かくして、9%利付き100万ポンドの、日本初の外国公債が70年4月ロンドンで公募された。しかるに日本側は、利鞘（12%でレイは日本に貸付る）、担保（関税と鉄道収入は300万ポンドの借款に対してと日本は主張）、および「公募」されたこと（レイは裕福な資本家から「私募」すると語っていた）を理由に、6月末に契約破棄と代理人解雇を通告した。若干の曲折を経て70年12月に示談が成立し、彼との関係は清算された。契約破棄に伴う係争の処理を委託されたオリエンタル銀行が、公債の処理と鉄道敷設も委任された。

レイは69年4月、4人の友人との合意と彼を含めた5人の資金拠出により、中国官話能力と清朝政府高官とのコネクションを頼りに中国を訪れ、鉄道建設とそのための借款供与を打診した。2ヶ月弱で中国での事業提示は不可能であると判断し、日本へと方向転換した。維新政府への働きかけは殊の外うまくいき、上述のような契約を締結できた。彼は適宜4名に連絡を行い、状況説明は滞りがなかった。資産家もしくは銀行からの資金調達を

1) 本稿の作成に際し、2003・05年度に大阪産業大学産業研究所から分野別研究による研究費の援助を得た。おかげで、兩年とも夏期休暇中英国で調査研究を精力的に行うことができた。その折国立公文書館で複写した裁判記録を中心に、本稿は構成されている。ここに記して感謝の意を表したい。

当然視していた彼は、70年3月末帰英後直ちに4名にアクションを要請したが、そのルートからの調達是不可能と拒絶された。結局やむなくエルランジェ商会に繋ぎ資金の融資を要請し、100万ポンドの調達も依頼した。かくして同商会は、70年4月シュレーダー商会を通じて、ロンドンで日本公債を発行した。借款関係は同商会に委任し、レイは鉄道建設関連に専念する予定であった。ところが、同商会へ依頼する段階で、利益分与方法で内紛が生じ、まずミスら2名から残り3名が提訴された。その後資材調達関係で、フェアバーンら2名が袂を分かち、レイらが訴えられた。

明治政府は、1872年（明治5年）から吉田清成大蔵少輔らを当初は米国に、ひいては欧州に派遣し²⁾、「秩禄処分」断行のための資金調達の手段として日本にとって2回目の外債発行を試みた。最終的には、下記の表の条件で所望の資金を英国市場で円滑に調達でき³⁾、封建制の残照を整理し近代化の礎を築くことが可能となった。

吉田がロンドンで外債発行を模索していた折、70年発行の「9分付外債」（いわゆる「鉄道公債」）の影響を随所で受け続けた。すなわちその元来の発行人；レイの言動は無視できなかった⁴⁾。たとえばオリエンタル銀行（Oriental Bank Corporation, 東洋銀行とも呼ばれる、以下OBCと略す）の単独引受ではなく、シンジケート団を形成したことなど⁵⁾。

ところで在英中、いずれもレイが被告となった2つの民事裁判に関する判決が、73年2月25日に下された。2月24日と26日の『タイムス』に、当該裁判の紹介と判決の要約が掲載された。吉田は後者を翻訳し、わざわざ「公債発行日記」に掲載した⁷⁾。

2005年夏、筆者は吉田日記と『タイムス』記事、および鈴木氏や戒田氏の先行研究を手がかりに、英国国立公文書館で両裁判の裁判記録を入手した。これらを読み進めていくうちに、一連のレイ契約に関して、日本で未発見の貴重な合意書や協定の解約同意書などが、レイの証言記録の中に数多く含まれていることが判明した。そこで、本稿では彼らの係争はさておき、レイ契約に関するこれらの重要な法廷記録を資料として提示し、本テーマに関する研究の一助としたい。一方の当事者の大隈重信や伊藤博文の回顧談、および『外交

2) 米欧を回覧した「岩倉使節団」とも、一部重複並行している。

3) 吉田の出発から公債発行に至る経緯については、『明治前期』10巻の「七分付外國公債発行日記」「在歐吉田少輔往復書類」に詳細が述べられている。

4) 加えて、70～71年の晋仏戦争の賠償金支払いのため、フランスが公債を発行するかもしれないという観測もあり、72年後半利率が高騰し、吉田の任務は容易ではなかった。

5) 逆に日本にとって、OBCへの過度の依存を回避できたという利点もあったが。なおはじめに英国に赴かず、まず米国に行ったのは、OBC以外の引受を模索したからであった。

6) 「鉄道公債」の公債証書は、『明治前期』10巻、pp.48～50に、「9分付」のは、『明治前期』10巻、pp.155～164に詳細が記されている。

7) 『明治前期』10巻、pp.189～191。

表1. 両外債の比較⁶⁾

名 称	9分利付外国公債（「鉄道公債」） 〔『明治前期』10巻, 「九分利付外国公債紀事」〕	7分利付外国公債 〔『明治前期』10巻, 「七分利付外国公債発行日記」「在歐吉田少輔往復書類」〕
主な資料		
公債発行高 使用目的	100万ポンド 鉄道建設	240万ポンド 「秩禄処分」
利 率	9% 71年2月より年2回の利払い	7% 73年7月より年2回の利払い
発行価格	100につき, 98	100につき, 92.5
発 行 日	1870年4月	1873年1月
抵 当	関税, 完成後の鉄道収入	年々禄米40万石（不足の場合は追加）
償還条件	73年8月開始, 10年で完済予定。 10万ポンドづつの元金償還	75年7月開始, 25年で償還完了予定。 元利均等払い(Accumulative Sinking Fund)
発行者 発行代理人	H.N.レイ シュレーダー商会	日本政府 OBCを中心としたシンジケート団
口 銭	代理人のコミッションは1% 違約金支払いなどに伴い, 日本政府は91万ポンドを入手した。	2.5% (100につき90が日本政府の取分) 代理人のOBCのコミッションは1%
実効利率	結果的に約9.9%となった。	8.5%
備 考	69年12月の日本政府のレイに対する「命令書」に基づく。	

文書』や『明治前期』などを中心とした日本側の資料だけでは必ずしも判明しなかったレイ契約の全体像が、鮮明に浮かび上がってくることが期待できよう。たとえば、69年9月下旬にレイが日本に借款供与を申し入れ、11月下旬には基本合意が署名された、70年4月レイとエルランジェ間で「レイの日本事業にエルランジェが同意、参加する」ことが合意された、12月の示談でこの「4月合意」を含めて日本政府はレイとの関係をすべて清算できたことなどの特筆すべき事実が明らかになった。

なお筆者は別稿で、英国出発前のレイの準備、契約締結過程での英国への報告と指示、帰英後の契約を履行するための彼の苦悩と行動を、これらの裁判記録をベースに紹介し、日本側資料とも合わせてその評価を試みる予定である。

2. 裁判記録

本稿で紹介する裁判記録は、以下の二つである。なお以下の引用に際しては、[S1]～[F5]の略記法を使用する。これらには、ページも振ってある。

裁判記録S

原告；スミス, ノヴェリ

被告；レイ，フェアバーン，オズボーン⁸⁾

国立公文書館(National Archives, NAと略す)での請求番号(Offsite⁹⁾)；C16/676/S146

[S1] 1870年5月25日ファイル。

1870〔訴訟年を示す〕-S〔原告代表Smithを示す〕-No.146

「原告側訴状」〔日本側がまだレイ契約破棄を通告していない時期〕

[S2] 70年12月30日ファイル。

「被告側答弁書」〔レイ契約破棄の通告を受け、示談が成立した直後〕

[S3] 70年5月25日ファイル。71年3月16日・5月25日の命令により、5月31日修正。

「原告側訴状の修正」〔レイ契約の破棄通告～示談成立・違約金支払いという状況変化により、訴状の修正が必要であった。ファイル日は原訴状に合わせてある。〕

[S4] 71年12月18日ファイル。

「被告側再答弁書」〔修正訴状への答弁書〕

[S5] 72年5月14日ファイル。〔5月10日レイの陳述、5月9日シュレーダーの証言、5月14日レイの事務弁護士ターナー (Joseph Edward Turner) の陳述〕

裁判記録F

原告；フェアバーン，オズボーン

被告；レイ，スミス，ノヴェリ

NA請求番号 (Offsite)；C16/639/F55

[F1] 1870年12月21日ファイル。

1870〔訴訟年を示す〕-F〔原告代表Fairbairnを示す〕-No.55

「被告側答弁書」

[F2] 70年6月4日ファイル。71年3月14日・4月14日・5月10日の命令により、5月22日修正。

「原告側訴状の修正」〔[S1]と同じくレイ契約の破棄通告～示談成立・違約金支払いという状況変化により、訴状の修正が必要であった。ファイル日は原訴状に合わせてある。〕

[F3] 71年12月18日ファイル。

「被告側再答弁書」〔修正訴状への答弁書〕

[F4] 72年5月14日ファイル。

[F5] 72年5月14日ファイル。

8) 裁判当事者については、次節の「主要登場人物などの紹介」を参照せよ。

9) 因みにこれらの法廷記録は、Chanceryに保管されており、NAでの要請後、配架入手に3日程度かかる。

3. 主要登場人物などの紹介

上述の裁判記録の背景理解のため、主な登場人物や組織などを簡単に紹介しておこう。レイが被告となった係争での、彼らの錯綜した諸関係や法廷闘争に至った経緯などの整理が容易となり、不理解の雲が少しでも薄れ全体像が浮かび上がりやすくなるだろう。

オズボーン (Sherard Osborn, 1822–75)¹⁰⁾

1822年4月22日インドのマドラスで生まれた。陸軍大佐Edwardの息子。37年義勇兵として海軍入隊。その後アヘン戦争、クリミア戦争、アロー号戦争（この時長江を遡り漢口まで測量）、メキシコ戦争などに従軍。52年1月、Helen Hinksmanと結婚。55年バース勲章授与。夏5回、冬3回の北極探検にも従事。しかしかえって北極探検などで健康を害したこともあり、66年退役。71年復役し、73年海軍少将に昇進。75年5月6日ロンドンで急死。

56年王立地理学会 (the Royal Geographic Society ; RGSと略す) 入会。北極探検などの学会発表も行う。よくその文才を発揮し、その他雑誌 (*the Blackwood's Magazine* など) への寄稿も数多く著作も3点ある。学会報告のみならず、公衆の啓蒙にも功績が大きかった。12ページにわたる長文の死亡記事が、75年学会誌 *JRGS* に掲載された。

退役後、組織化の才能を発揮し、67年電信建設会社 the Telegraph Construction and Maintenance Co. (TCMと略す) の社長 (Managing Director) に就任し、73年までその職にあった。同社は、英国西南部コーンウォールのファルマスから地中海、紅海を経てインド、中国、オーストラリアに至る海底電信ケーブルを4年間で建設した。また後述のFECの理事でもあった。

なお彼は、58年8月 (安政5年7月)、日英修好通商条約締結のため来日したエルギン卿に同行し、併せて江戸湾の測量も実施した。その折の航海記 ; *A Cruise in Japanese Waters* を執筆している。

太平天国の乱を鎮圧させるために清国政府から、英国帰国中のレイに要請組織された派遣艦隊の艦長も務める。63年清国に到着するも、指揮命令権が清国政府のみ (地方長官の管轄外) にあるのか、レイの同意が必要かなどの点で双方に齟齬をきたし、最終的には中国側妥協案を彼が拒否しレイ側に違約金を清国が支払うことで艦隊は解散された。なお彼の決断と行動はパーマストン卿から賞賛された。(いわゆる「レイ・オズボーン艦隊事件」)

フェアバーン (Sir Thomas Fairbairn, 1823–91)¹¹⁾

10) *JRGS* vol.45の追悼記事, *ODNB*参照。

11) *ODNB*参照。

1823年1月18日マンチェスターで生まれた。技師として有名だったSir William (1789-1874)の息子。40年父の会社William Fairbairn Co.に入る。41-42年、10ヶ月に及ぶイタリア旅行で芸術に開眼。48年3月、外科医の娘Allison Callawayと結婚。

芸術の後援者、収集家、展覧会組織者としての方が有名。51年、62年、67年、71年の国際博覧会のコミッショナーとして辣腕を振う。74年父の死後爵位を継ぐ。同年鉄鋼業の不振により、自ら社長を務めていたthe Fairbairn Engineering Company (FECと略す)を閉鎖。その後居住地ハンプシャー州政府の行政官としての管理能力を発揮する。

91年8月11日、卒中により死去。交友の広さを物語るように、遺品にはナポレオン3世、プロシア皇太子、オーストリア皇帝からの贈り物も含まれていた。

モリソン (Charles Morrison, 1817-1909)¹²⁾

1817年9月20日ロンドンで生まれた。James (1789-1857)の長男。父親は繊維の生産卸売業、商業銀行家、国会議員経験者で、500万ポンドと10万エーカーの土地を遺産として残した。15歳まで、ロンドンとジュネーヴの私立学校で教育を受け、その後エディンバラ大学で章を数個獲得したが、ケムブリッジ大学Trinity Collegeに移ってからは健康を害し学位を取れなかった。大学は都合3年間在籍した。

41年、父の新しい会社Morrison, Sons & Co.に参加した。同社は主として英国貴族に融資し、フランスやアメリカの鉄道にも投資した。50年代から、彼は数社の役員に就いた。次第に南米に重点を移していき、70年代からはアルゼンチンの鉄道や公共部門を建設した。並行して英国での投資も行っていた。

内気な性格もあり、あまり世には知られていないが大資産家であった。遺産は、1000万ポンド以上におよび、過去の誰よりも広大な土地を残した。英国国教徒、自由党の支持者であり、絵画の収集もしていた。1909年5月25日未婚のまま死去。

シュレーダー (John Henry William Schroder, 1825-1910)¹³⁾

1825年2月13日ドイツのハンブルグで生まれた。商業銀行家Johann Heinrich男爵(1784-1883)の第4子。41年にロンドンにおける父の会社; J. Henry Schröder & Co.に入る。50-60年代、父と共同事業者Alexander Schlüsserの指導の下、事業経営を学ぶ。ドイツやロシアでの事業が拡大していき規模は4倍に拡大した。54年から70年代まで、事業全体を統御していた。83年父の死去に伴い、プロシア男爵を継ぎ、92年にはヴィクトリア女王から爵位を受けた。

12) モリソン一族の中から、レイや日本関係で特定化しCharlesと断定した。ODNB参照。

13) 72年5月9日([S5] pp.3-4, および[F5] pp.1-2)に彼の証言がある。R.Roberts, *Schröders*, ODNB参照。

社会事業も多方面にわたり、英独関係は特筆すべきである。Alexanderの姪Dorothea Evelineと、50年に結婚。1910年4月20日死去。

友人であり協同事業者であるフランス人エルランジェ（Emile Erlanger）と共に、様々な借款を供与していた。エルランジェは彼の協力を得てロシア、チリ、南アフリカなどへも融資した。

コンソリデイトッド銀行（Consolidated Bank, CBと略す）¹⁴⁾

1863年設立。本店は（イングランド銀行所在地の）Threadneedle Street52番地。1869年当時出資者数2000人、払込資本80万ポンド、準備金10万ポンド、配当5%。因みに、OBCは植民地銀行で本店は同じThreadneedle Street40番地、1600人出資、払込資本150万ポンド、準備金44.4万ポンド、配当12%となっている。

フェアバーン、ノヴェリ（Augustus Henry Novelli）およびスミス（William Smith）が、理事として名前を連ねている。

ところで4名の役職関係を整理した表を作成したので、参考にしてほしい。

表3. 4名の役職関係

氏名	Consolidated Bank	Fairbairn Engineering Co.	Telegraph Construction and Maintenance Co.	備考
フェアバーン	理事	社長		資産家、芸術を後援
オズボーン		理事	社長	海軍大佐、探検家
スミス	理事			モリソンと昵懇という理由で後から加入
ノヴェリ	理事			

総税務司（Inspector General）¹⁵⁾

元来上海では清国の税務官が徴税を行っていたが、「太平天国の乱」の余波で任務遂行が不可能となった。そこで1854年、清国政府は英米仏3国の領事に依頼し、自国人各1名を選定して税務官を補佐することとなった。彼らは脱税や横流しを防ぎ忠実に職務を遂行し、税収が増え清側は満足した。乱が平定に向かい上海が鎮定された後も、清の要請により外国貿易をつかさどる海関は継続して外国人管理下におかれていた。その後まもなく仏人が、続いて米人が職を辞した。次いで56年英国人委員ウェイド(Sir Thomas Wade)も、外国の現地商人の非難や怨嗟の圧力に屈し辞任してしまった。そこで英国上海領事館副領

14) BA1869年版, pp.207~212参照。

15) 岡本隆司『近代中国と海関』, 坂野正高『近代中国外交史研究』, Bredon, *Sir Robert Hart, Gerson, Horatio Nelson Lay and Sino-British Relations 1854-64*参照。

事兼通訳官であったレイが後任に就いた。仏米の2国は後継者を任命しなかったので、自ずとレイが上海海関を総理することとなった。

アロー号戦争の天津講和条約に基づき上海の海関制度が他の開港場にも適用されることとなった。外国人税務司は、清側にも税収確保という恩典があったので受け入れられた。かくして59年、上海欽差大臣；何桂清によりレイが「總税務司」に任じられた。61年總理衙門が設けられるとその管理下におかれ、あらためて恭親王（奕訢；咸豐帝の実弟）から彼が「總税務司」に任命された。ところで各開港場の税務司は外国貿易のみを管理する。各税務司は総税務司が任命し監督する。總理衙門は総税務司のみを任免し、他の開港場の税務司は全く統括しない。これがこの制度ができた経緯と運営方法であり、レイが初代総税務司に就任した背景である。

61年からの下賜休暇（上海の暴動により負傷）により帰英中のレイに、62年3月清国政府から「太平天国の乱」の平定（ひいては海軍の設立・近代化）のため、艦隊の組織・派遣が要請された。しかるに艦隊の到着後からその指揮命令権などに関して双方の意見が対立し、この過程でレイは清国政府の信を失い、63年11月總税務司を解任された。

彼の留守中、總税務司代理を務め信任を得ていたハート（Sir Robert Hart, 1835-1911）が、恭親王からレイの後任に任命された。ハートは忠実のその任務を果たしただけでなく、政治顧問的役割も演じ清末中国の欧米との外交面での橋渡し役もつとめた。彼は1908年賜暇帰英し、11年9月20日在職のまま死亡した。

レイ（Horatio Nelson Lay, 1832-1898）¹⁶⁾

中英関係に果たしたレイの役割を研究出版したガーソンに拠れば¹⁷⁾、一族の間の伝承では、Mary Nelson（レイの母親）は、トラガルファー沖海戦で名をはせたネルソン提督（Horatio Nelson, 1758-1805）の親戚で「兄弟の姪」（a niece of his brother）に当たる。孫のJohn L. Layは幼少の頃ロンドン北方のキングス・リンに祖母Maryを訪ねていたが、さほど遠くない所にネルソン家の人たちが住んでいたという。

4世代に亘り極東での仕事に携わったレイ家の行績を紹介したMaryの曾孫アーサー・レイに拠れば¹⁸⁾、この曾祖母は提督の「遠縁の姪あるいは二いとこ」（a distant niece or second cousin）と記されている。

ジョージ（George Tradescant Lay, 1800-1846）は1800年に生まれた。1825～28年ピ

16) Gerson, *Horatio Nelson Lay and Sino-British Relations 1854-64*, King, "Horatio Nelson Lay", Arthur C. H. Lay, *Four Generations in China, Japan and Korea* 参照。

17) Gerson, *Horatio Nelson Lay and Sino-British Relations 1854-64*, footnote 17 p.246.

18) Lay, *Four Generations in China, Japan and Korea*, p.5.

ーチ船長の中国探検に参加した博物学者であった。この折種子採取のため、沖縄や小笠原も訪れた。36年聖書協会の一員として中国を再訪し、前後して著作を執筆した。42年アヘン戦争講和の南京条約締結の英国全権大使ポッティンジャーに通訳として同行した。開港された広東、福州、厦門でその後領事を務めた。中国語に堪能だっただけでなく、日本の難破船乗員から日本語を学んだともいう。Maryと結婚したが、46年厦門で死去した。

レイはジョージとメアリーの長男として32年に生まれ、母方一族の英雄の名前を冠された。父の急死を受けて14歳で中国に渡った。ドイツ人グツラフに中国語の読み書きの手ほどきを受け習得した。19歳で香港行政官の通訳、22歳で上海の副領事になった。56年にウェイドの後任として英国の税務司になり(年俸2000ポンド)、その後初代総税務司に就任(年俸4000ポンド)した。62年には年俸8000ポンドであった。58年にはエルギン卿の要請で、天津条約の交渉にも英国側通訳として参加した。

なお49年には、漂流漁民交換のための米国使節の通訳として、来日した。

総税務司就任と辞任の経緯や「レイ・オズボーン事件」での言動は先述の通りである。

下賜帰国中の62年、中国の関税制度改革に関する功績により、バース勲章を授与された。その後英国外務省や清国政府の公職には一切就かず、融資事業などを手がけた。62年RGSに入会し、僚友オズボーンの発表にコメントも行った。98年ロンドンで死亡した。

4. 補論；訴訟で公開された重要文書

公判ではさまざまなことが明らかとなっていた。そのうち日本政府への借款供与の提示、帰英直後の「私募」の模索、エルランジェへの資金供与の依頼、契約破棄とOBCによる示談交渉の過程が次々と語られていった。これらは日本の鉄道黎明期において、第1級の資料的価値を有すると確信しているので、研究者や好事家の便宜を図るべく本稿の補論としてここに採録しておこう。時系列で並べ、法廷記録の典拠も示しておいた。

【69年3月18日、レイからフェアバーン宛手紙。[S2] p.3, [F1] p.3。】

“89 Gloucester Terrace Hyde Park W.

“Dear Fairbairn

“The idea has entered my head and I have been pondering over it for the last day or two that it might be worth while to take advantage of the present juncture and run over to Peking with a view of ascertaining positively what the real views of the Chinese Government are in respect to railroads telegraphs and progress generally and I have

thought that if we could make some arrangement of the nature we talked over some months back I might be disposed to go out. I called at Fenton's to-day but you had flitted.

Write me a line by return of post. There is one thing if I were to go I ought to go as soon as possible before the treaty is revised."

"Sincerely yours

H. N. Lay

"T. Fairbairn Esq.

March 18th 1869.

【69年7月19日、レイからフェアバーン宛の手紙。[S2] pp.6~7, [F1] pp.6~7。】

"The Japanese Government would I feel sure (they are I am told very hard up) want the money at once. You will have to consider how soon supposing the loan were for 3 millions you could send out the first installment I should say £500,000 should be guaranteed within six months the £2,500,000 within twelve months. Think over this the Japanese will probably say to me we want money now at once. We can't wait unless we can get it without delay it will be of no use."

【69年9月27日、レイから日本政府へ。原文は中国語とのことである。[S2] p.7, [F1] p.7。】

"I beg to state that if your Honourable Government wishes to borrow money I am able to provide in England money from 2 to 3 millions sterling in amount (an English £ 1 is equal to about 3 rios of your honourable currency) as to interest it would be at 6 per cent every half year."

【69年11月26日、レイと日本との基本合意書。[S2] pp.7~8, [F1] pp.7~8。】

"This is to certify that the Japanese Government have agreed to take a loan of £ 1,000,000 sterling from Mr. Lay at 12 per cent per annum and Mr. Lay is hereby authorized to communicate to that effect with his friends in London at once.

"In witness whereof we have on the part of Japanese Government affixed our signatures hereunto this 26th November 1869."

"The formal agreement will be drawn up in a few days."

(Signed)

“Ito Okuranoshoyu

“Yamayuchi Goi

“Witness to the signatures

(Signed)

“H. N. Lay

【69年12月1日，レイからフェアバーンへの手紙の一部。[S 1] p.5。】

I think with the good securities we shall get with Parkes good will and formal endorsal of the undertaking Morrison might advance £500,000 forthwith that is when I get home when all the papers are before you. It would convey an impression to the Japanese of our strength as shewing that we were not merely depend for funds upon the money of bondholders. This is of *infinite importance* in view of our securing the next loan. I am sure— in fact they already talk of it— they will want to loan another two millions within 18 months and we must play for that loan too now. It is in our power by wise action to get the monopoly of the field here which is gigantic simply.

(中略)

As to a second loan I shall leave a written memo behind me saying that we shall be ready to take the next loan at 2% commission and 1/4% for stamps &c.

【70年3月31日，レイとエルランジェのメモ。[S 2] p.13, [F 1] p.13。】

“Memo. Messrs. Erlanger undertake the responsibility of the issue of the Japanese loan of £1,000,000. Messrs. Erlanger will be entitled to 3/8ths of the financial profits and 1/4th of the other profits of the combination after a deduction of an agreed sum of £50,000.”

“Emile Erlanger & Co., London.

“H. N. Lay.

“31st March, 1870.”

【70年4月22日，レイからFECへの念書。[F 2] p.19。】

“London 22nd April 1870.

“Japanese Railways.”

“I undertake to give the Fairbairn Engineering Company the preference as regards the Contracts for the expenditure in respect of the £300,000 on the same terms as any

other respectable firm in this Country would deal subject of course to a formal Contract and Specification and to the advice and inspection of an Engineer to be appointed by me.”

“H. N. Lay.

“The Fairbairn Engineering Company Limited.”

【70年4月22日, フェアバーンからエルランジェへの念書。[F 2] p.20。】

“Messrs. E. Erlanger & Co.

“Gentlemen

“London 22nd April 1870.

“In the event of the Fairbairn Engineering Company receiving the contract for the expenditure in respect of the £300,000 I undertake on behalf of that Company to give you one half of the profits of such Contract.”

“I am gentlemen

“Your obedient servant

“Thomas Fairbairn”

【70年4月23日, レイとエルランジェと協定書。[S 2] p.16, [F 1] p.16。】

“London 23rd April 1870.

“The documents executed by us to-day provide for the division between us of the profits resulting from the payments of one million and £900,000 agreed to be made to the undersigned Horatio Nelson Lay by the Japanese Government as per agreement of the 14th day of December 1869 and also with the commission of 2.5 per cent on the £300,000 mentioned in those documents but it is further understood and agreed that if any other profit accrues to the undersigned Horatio Nelson Lay from that agreement or any other agreement subsidiary or ancillary to it or in any other manner arising out of the loan to the Japanese Government the profits are in like manner to be shared between us in equal proportions and it is also understood and agreed that all future business in Japan shall be on the joint account and that all profit and loss outlay and risk in respect thereof shall be shared between us in equal proportions and further that if for the sake of getting such business we have to take the Oriental Bank as partners the conditions on which we do so shall be agreed upon between ourselves no future business in Japan to be undertaken without the consent of both of us.”

“H. N. Lay.

“Baron Emile Erlanger.

“Witness: “W. R. Drake（エルランジェの事務弁護士；引用者）

“Reginald S. Davies（同） “20 Craven Street Charing Cross¹⁹⁾

【70年11月5日，レイへのOBCからの通告書。[S2] pp.31～32, [F1] pp.40～41。】

“On behalf of the Japanese Government the Corporation will be prepared on Tuesday next the 8th instant between the hours of 11 and 12 at noon upon surrender of your contracts with the Government and upon the joint receipt of yourself and Messrs. Emile Erlanger & Co. in the enclosed form to pay the sum of £62,000 in settlement of all claims and demands of both upon the Government.

If this offer shall not be accepted your dismissal as Commissioner of the Government and the intended return of the loan will be advertised on Wednesday next the 19th instant and the power of the Corporation to make any payments to or settlements with you will be at an end.

This offer if not accepted is not to be held to prejudice the Government or to pledge it to make any payment whatsoever to you or your associates.

In any event the interest of all third parties will be held sacred and all contracts entered into by you in good faith on behalf of the Government will be held binding so far as regards the bondholders and the disposal of the £300,000.”

これには，次のような日本政府との手紙も添えてあった。

“We acknowledge to have received from the Oriental Bank Corporation on behalf of the Japanese Government the sum of £62,000 in full of discharge of all payments claims and demands whatsoever of us or either of us upon the Government whether in respect of the £1,000,000 loan or the £300,000 to be applied in purchase of railway plant or otherwise howsoever. And we agree out of the said sum to pay and discharge all claims demands of Messrs. John Henry Schröder & Co. in respect of the said loan and we herewith hand to the Corporation cancelled the agreements of the Government with the undersigned Horatio Nelson Lay.”

19) 初めの部分の「90万ポンド」が何を意味しているのかが，筆者には不明である。

【70年12月2日, MHからターナーへの返答。[S 2] pp.32~33, [F 1] pp.41~42。】

“11 Birchin Lane London E. C.

“December 2nd 1870.

“Japanese Loan

“Dear Sir

“We communicated to the Bank Mr. Lay’s decision not to settle on receipt of £13,000 unless he received an extra £1,000 to cover Trautmann’s claims or was indemnified by the Bank against liability under his agreement with Trautmann but as that agreement was determined by Mr. Lay on his own account before any negotiations for settlement between the Government and Mr. Lay and the whole of these negotiations have proceeded so far as the Bank and Government are concerned on the basis that under no circumstances would they relieve Mr. Lay of any liability to Trautmann. We are instructed that the Bank will only pay £13,000 to settle with Mr. Lay leaving him to dispose of Trautmann’s claims as he can.

If on reconsideration Mr. Lay adheres to his views then the matter must fall through and he must take what course he pleases.

We have advised the Bank at once to settle with Messrs. Erlanger & Co. independently and this will be done forthwith.

Let us know as soon as possible whether Mr. Lay will settle on the term of the Bank or not as we must have the termination of his appointment advertised on Monday or Tuesday whether in the form settled for him to sign or in a form for the Bank alone.”

“We remain

“Yours truly

“Murray & Hutchins.

“J. E. Turner Esq. (レイの事務弁護士；引用者)

“36 Gresham St. E. C.”

【70年12月2日, ドレイクからターナーへの通告書。[S 2] p.33, [F 1] p.42。】

“7 Parliament Street., Westminster S. W.

“2nd December 1870.

“Japanese Loan

“Dear Sir

“I had hoped to have heard from you with an appointment for to-morrow to settle the matter with the Japanese Government and unless an appointment is made for Monday I shall advise my clients to tender to the Government a receipt for the £57,000 agreed to be paid to them in satisfaction of their claim and the claim of Messrs. Schröder in connection with the loan up to this time.”

“Yours faithfully

“W. R. Drake

“Joseph Turner Esq.

“36 Gresham Street., E. C.”

【70年12月6日，レイとエルランジェの解約同意書。[S4] p.2, [F3] pp.4～5。】

“Imperial Government of Japan — Customs Loan.

“We acknowledge to have received from the Oriental Bank Corporation on behalf of the Japanese Government the sum of £70,000 £57,000 of which is paid to the undersigned Emile Erlanger and £13,000 to the undersigned Horatio Nelson Lay in full discharge of all payments claims and demands whatsoever of us or either of us whether in respect of the £1,000,000 loan or the £300,000 to be applied in the purchase of railway plant or otherwise howsoever. And I the undersigned Emile Erlanger agree out of the said sum of £57,000 to pay and discharge all claims and demands of Messieurs J. Henry Schröder and Company in respect of the said loan down to the present time. And I the said Horatio Nelson Lay herewith hand to the Corporation the agreements of the Government with the undersigned Horatio Nelson Lay cancelled.”

“Dated this 6th day of December 1870.”²⁰⁾

【70年12月6日，レイとエルランジェの解約書。[S5] p.5, [F5] p.5。】

“Whereas an arrangement has (with the consent of the within-mentioned Emile Erlanger & Co.) been come to with the Japanese government by the within mentioned Horatio Nelson Lay whereby in consideration of the said government paying to the said Emile Erlanger & Co. the sum of 57,000*l.* in satisfaction of their claim and the claim of Messrs. Schröder and Co. in connection with the mentioned loan up to the day of the

20) なお原文では“Schröder”の「h」が抜けていた。

signing of these presents and the said Horatio Nelson Lay the sum of 13,000*l.* (together 70,000*l.*) the said Horatio Nelson Lay has agreed to deliver up the within recited agreements made by him with the said government to the said government or its agents. And whereas it was as between the parties to the within deed of covenant part of the above-mentioned arrangement that the said deed of covenant should be cancelled and that each party should release the other in respect of all matters and things thereby agreed or covenanted to be done and from all other covenants agreements matters and things arising out of the within mentioned loan or connected therewith or incidental thereto except the liability of the said Emile Erlanger and Co. to pay and discharge the said claim of Messrs. Schröder & Co. it is therefore witnessed that in consideration of the above-mentioned payments this day made by the said government to the said Messrs. Emile Erlanger & Co. and Horatio Nelson Lay respectively they the said Messrs. Emile Erlanger & Co. and Horatio Nelson Lay do hereby respectively cancel the within deed of covenant and do hereby mutually release and discharge each other of and from all agreements covenants matters and things by the said deed agreed or covenanted to be done and from all other covenants agreements matters and things arising out of the within mentioned loan or connected therewith or incidental thereto and from all accounts reckonings claims and demands whatsoever in respect thereof or in connection therewith except the liability of the said Emile Erlanger & Co. to pay and discharge the claims of Messrs. Schröder & Co. up to the day of signing of these presents. And each party hereby covenants with the other to make do and execute all such further acts deeds matters and things as may be necessary or proper for giving due effect for such cancelment of the said deed of covenant and mutual releases in respect thereof as aforesaid. And the said Emile Erlanger & Co. hereby agree to pay and discharge the said claims of Messrs. Schröder & Co. in respect of the said loan or arising thereout and to hold the said Horatio Nelson Lay harmless and indemnified therefrom. In witness whereof the parties have hereunto set their hands and seals the sixth day of December 1870.”

“H. N. Lay

“Emile Erlanger & Co.

“Signed sealed and delivered by the above-named parties in the presence of

“Julius Beer.

“Joseph Ed. Turner.”

参考資料・文献リスト

[1次資料]

大内兵衛・土屋喬雄編、『明治前期財政経済史料集成』10巻，1963年。（『明治前期』と略す）

外務省調査部編、『大日本外交文書』（明治2～3年分），日本国際協會，1938年。

The Banking Almanac, Directory, Year Book and Diary.（BAと略す）

The Banker's Magazine, Journal of the Money Market, and Commercial Digest.（BMと略す）

The Journal of the Royal Geographic Society.（JRGSと略す）

Oxford Dictionary of National Biography.（ODNBと略す）

[文献]

岡本隆司，『近代中国と海関』，名古屋大学出版会，1999年。

坂野正高，『近代中国外交史研究』，岩波，1970年。

Bredon, Juriet, *Sir Robert Hart*, London, 1909.

高柳松一郎訳，『清國總稅務司サー，ロバート，ハート』，博文館，1910年。

Gerson, Jack J., *Horatio Nelson Lay and Sino-British Relations 1854-64*, Harvard University Press, 1972.

King, John, “Horatio Nelson Lay, C.B.; A Pioneer of British Influence in the Far East”, *the Journal of the American Asiatic Association*, vol.14, No.2, pp.40～54.

Lay, Arthur Croall Hyde, *Four Generations in China, Japan and Korea*, Oliver & Boyd, 1952.

Osborn, Sherard, *A Cruise in Japanese Waters*, William Blackwood and Sons, 1859.

島田ゆり子訳，『日本への航海』，新異国叢書第3輯，雄松堂出版，2002年。

Roberts, Richard, *Schroders; Merchant & Bankers*, Macmillan, 1992.

Suzuki, Tishio, *Japanese Government Loan Issues on the London Capital Market 1870-1913*, the Athlone Press, 1994.